

ベルハンマーよくある質問集 基本知識編

ベルハンマーに関係するご質問を共通・LS・H1 ごと問答形式でまとめてみました。

下記 ご注意（免責）をご確認のうえ参考にして下さい。

ご注意（免責）

ブレーキ・クラッチ・特にバイクのエンジンオイル（湿式クラッチ）等、摩擦で動作を制御する箇所には絶対に使用しないでください。

本商品は自己責任にて使用をお願いします。

本製品を使用した塗布対象物の物性変化それに伴う動作等の影響に関しては 一切保障いたしません。

BELL HAMMER 共通

Q LS と H1 の違いは何ですか？

A H1 は食品機械用の潤滑剤です。食品工場でご使用下さい。

LS は鉱物系の超極圧潤滑剤です。一般機械・自動車・バイク・自転車・DIY などにお使い下さい。

Q MSDS・SDS（製品安全データシート）はありますか？

A あります。弊社ホームページ内の LS・H1 各ベルハンマーページ内、最下部に全商品表示、MSDS・SDS をダウンロード出来るようになっております。

Q ゴム、樹脂、プラスチックへの影響はありますか？

A 工業製品に使われるゴム・樹脂・プラスチックは無数の種類があります。参考資料として対油表を準備していますが、自己責任にてご使用下さい。

Q 耐熱温度は何℃？

A LS ベルハンマー：208℃、H1 ベルハンマー：200℃まで潤滑性能を発揮します。
(JIS 規格のクリーブランド開放式(COC)による試験結果)

ただし基油は 100℃くらいから揮発致します。(うっすら煙が出てきます)

Q 耐寒温度は何℃？

A LS、H1 とともに-15℃

※補足：例えば、-20℃前後の環境で動いているところもあるが、基本的には難しいです。

常に稼働させている箇所であれば金属が熱を持っているので、動かせることもあるが
放置させている装置は結露が付いたりしてしまって潤滑は期待できません。

Q スプレー式 420ml では原液配合量は何 CC ですか？

A LS 原液 170ml + LPG ガスの構成です。

H1 原液 135ml + LPG ガスの構成です。

Q クリーンルームへ対応していますか？

A 申し訳ございませんが、未対応です。

Q ベルハンマーに、シリコンオイル・シリコーンオイルは使用されていますか？

A LS・H1 共に、シリコンオイル・シリコーンオイルは一切使用しておりません。

Q ベルハンマーシリーズ (LS・H1) の保存期間はどれくらいですか？

A LS・H スプレー・原液・グリース各種の保存期間は2年になります。

Q ベルハンマーシリーズ (LS・H1) の保存方法について？

A LS・H スプレー・原液・グリース各種ともに、冷暗所で保管してください。

また、原液については非常に浸透性が高い商品のため

寝かして保管することにより、漏れる可能性がございますので

必ず立てて保管するようお願い致します。

LS BELL HAMMER

Q LS ベルハンマーグリース No. 0 と No. 2 の違いについて

A ちょう度（グリースの硬さを表す基本物性値）に違いがあります。潤滑性能は変わりません。No. 0の方がNo. 2より柔らかいです。No. 0とNo. 2のちょう度はJIS規格に準拠しております。
No. 0：フレッチング（微動摩耗）を起こしやすい場所、高速回転や軽量の箇所への充填に
No. 2：密封玉軸受用（ベアリング）
ダンパーを必要とするような重たい（トルクのかかる）箇所や面圧の強い箇所へ

Q LS ベルハンマーグリース No. 0 と No. 2 420ml の見分け方について

A 現行のカートリッジ式（蛇腹タイプ）のグリースは黒の容器になっております。

見分け方としては、キャップの色が違います。

No. 0：透明（白）キャップ

No. 2：オレンジキャップ

Q ベルハンマーに赤キャップと黒キャップの商品がありますが、どのような違いがありますか？

A 現在、場合によって赤キャップと黒キャップが混在しておりますが

旧デザインが赤キャップ、新デザインが黒キャップとなっております。

製品の中身自体に違いはございません。

Q 「H1」という規格について教えてください？

A H1：偶発的に食品に付着して、体内に取り込んでも問題ない。
H1 ベルハンマーはアメリカの認証機関 NSF の認証を取得しております。

Q NSF（ホワイトボード）の認証番号はありますか？

A あります。弊社ホームページにて全商品表示、ダウンロード出来るようになっております。

Q H1 のスプレー、グリース、原液は混在しても大丈夫でしょうか？

A 混在しても大丈夫です。
また、スプレーや原液でグリスを溶いて、お好みのちょう度(かたさ)で使用することもできます。



H1 シリーズ混在可否の説明動画はこちら

LS・H1 ベルハンマー 耐油表

(注) 下記データは室温によるデータです。

高温等で使用する場合は、試験片による実用試験にて確認して下さい。

下記 ご注意（免責）をご確認のうえ参考にして下さい。

ご注意（免責）

工業製品に使われているゴム・樹脂・プラスチックは無数の種類・物性・特性があります。

あくまで参考資料として耐油表をお使い下さい。

本製品を使用した塗布対象物の物性変化それに伴う動作等の影響に関しては一切保障いたしません。

① ゴムに対する影響

ゴムの種類（略号）		ゴムの種類（略号）	
天然ゴム (NR)	×	ニトリルゴム (NBR)	◎
ブタジエンゴム (BR)	×	アクリルゴム (ACM)	◎
スチレンゴム (SBR)	×	ウレタンゴム (U)	◎
ブチルゴム (IIR)	×	シリコーンゴム (Si)	○△
エチレン・プロピレンゴム (EPM)	×	フッ素ゴム (FPM)	◎

② プラスチック・樹脂に対する影響

プラスチック・樹脂の種類（略号）		プラスチック・樹脂の種類（略号）	
塩化ビニル樹脂/軟質 (PVC)	△	フッ素樹脂 (PTFE)	◎
塩化ビニル樹脂/硬質 (PVC)	○	ポリカーボネイト (PC)	◎
ポリスチレン (PE)	—	メチルペンテン樹脂 (TPX)	◎
ABS (ABS)	◎	ポリウレタン (PU)	—
ポリエチレン (PE)	△	フェノール樹脂 (PF)	◎
ポリプロピレン (PP)	○	メラミン樹脂 (MF)	◎
ナイロン (PA)	◎	エポキシ樹脂 (EP)	○
アクリル樹脂 (PMMA)	○		

◎：全くあるいはほとんど影響がない ○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える

△：なるべく使用しないほうがいい ×：大きく影響があるため、使用に適さない

—：データ無し